

(1)ビジョン策定の趣旨

本ビジョンは、平成20年3月に策定した「各務原市産業振興ビジョン」の改定版である。前回策定したビジョンでは、恵まれた産業環境を有効に政策活用するため、あるいは重点的支援の方針を打ち出すため、本市を取り巻く環境から産業構造を詳細に分析し、10年間という比較的長い期間で行っていくべきことを、象徴的な6つの柱と具体的な30本の事業にまとめ、策定した。

産業振興ビジョンの策定による効果については、明確な目的を持った強力な各種施策を講じることが可能となったことが最も大きな成果であるが、このほかにも、これまでに無い産業支援手法を確立し、新たに支援機関や研究機関との連携協力体制を構築する契機となったことも成果として数えられる。

また産業政策スタッフのスキルアップにも繋がるなど、多くの利点を副次的に生み出すことになった。本市が高度な産業政策を打ち出せる政策形成能力を持つきっかけとなったともいえ、総じて大きな成果があったといえる。

一方、幾つかの課題も判明した。同ビジョンは本市産業の特徴を分析した上で、伸ばすべき分野を戦略的に支援するために策定したものであり、本市産業を取り巻く全ての産業を網羅した訳ではない。そのため、戦略分野以外の産業分野において、支援密度に濃淡が生じている。

また、上述の課題とは逆の方向性ともいえる課題も発生した。本ビジョンは戦略的に支援する分野を特定したものであるが、一方ではやや総花的に事業を並べている、との見方がある。そのため、例えば最も重視すべきとの声も大きい航空機産業について、もっと具体的な記述が必要なのは、といった指摘も受けてきた。

これらの成果と課題を改めて検証し、改定版「各務原市産業振興ビジョン」を策定する。新ビジョンは5章で構成し、参考資料を付加した。期間は2018年から2027年の10年間とする。

第1章は「ビジョン策定の概要」とし、新しい産業振興ビジョン策定の趣旨や構成、位置付けを説明した。

第2章は「各務原市における産業の現状」とする。現在の本市を取り巻く産業の構造や、さまざまな経済環境を分析し、10年間でどのような変化が生じたのかを明らかにしつつ、次の10年で起こるであろう潮流を予測する。

第3章は「各務原市産業振興のグランドデザイン」とする。主に第2章で述べ、考察した結果から、今後あるべき産業振興の姿を象徴的にまとめた。

第4章「具体的方策」では、グランドデザインで示した産業振興策を、具体的に行うべき方向性や事業名などを例示し、産業振興ビジョンの推進力を説明した。

第 5 章は「推進体制、進捗管理」とする。産業振興ビジョン策定後、どのような組織体制で実施していくのかを整理した。

以上、各務原市産業振興ビジョン策定の概要を述べた。本書を元に、今後各関係機関や関連企業、有識者会議「産業振興懇談会」などから幅広く意見を聞き、実行力のある諸事業、諸施策を展開していく。

(2)ビジョンの位置付け

各務原市産業振興ビジョンは、本市まちづくりの指針となる「各務原市総合計画」（平成 27 年度～平成 36 年度）の理念を踏まえた上で、総合計画策定時より変化した産業環境や技術テーマなどを加味し、産業振興の個別計画として位置付ける。

また平成 26 年、国により示された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、本市で策定した「しあわせ実感かかみがはら総合戦略」との整合性も図りつつ策定した。

